

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 18043

建築物名称	川崎真心生楽館新築工事
建築主	医療法人知真会 理事長 大島 佳宣
建築物の所在地	川崎市川崎区日ノ出一丁目12番5 外4筆
設計者氏名、建築士事務所名	竹内 陽 大和ハウス工業株式会社 横浜支社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,504.91m ²
用途	有料老人ホーム・診療所
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了予定年月	令和元年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

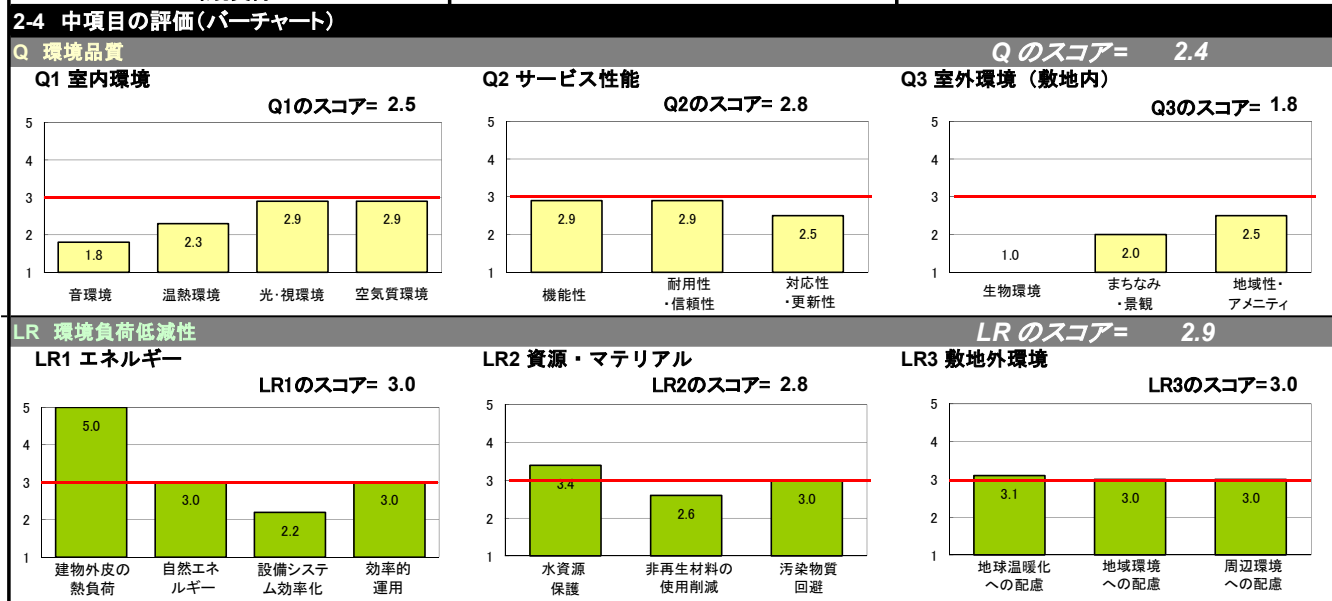
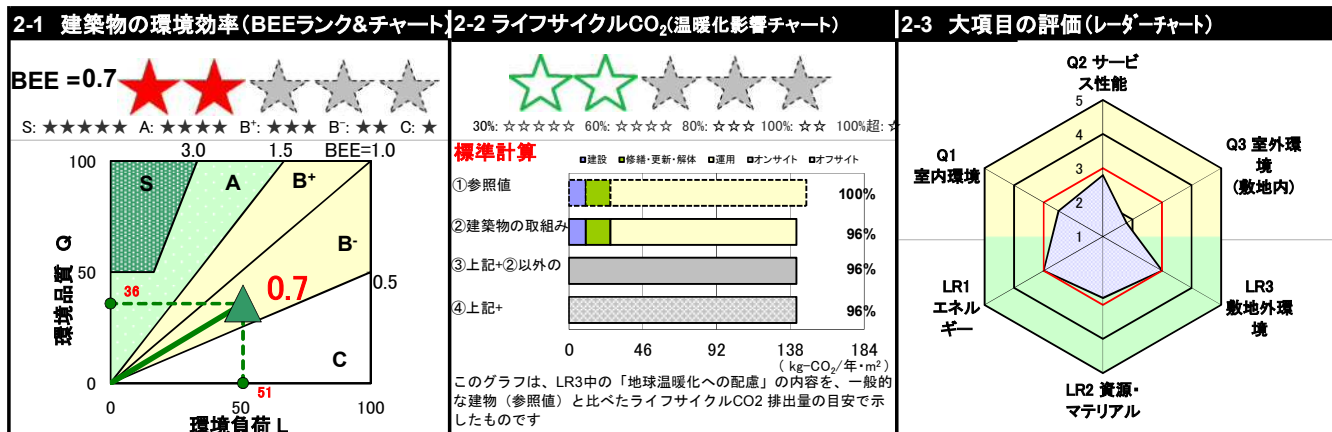
CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.1.2)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		18043
建物名称	川崎真心生楽館新築工事	階数	地上3F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市川崎区日ノ出一丁目12番5 外4筆	構造	S造	
用途地域	準工業地域・準防火地域	平均居住人員	100 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2018年12月3日	
敷地面積	2,009 m ²	作成者	竹内 陽	
建築面積	929 m ²	確認日	2018年12月3日	
延床面積	2,505 m ²	確認者	竹内 陽	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合		
2 まちなみ・景観への配慮		1.4/4.3	1.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率:53%		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣等間隔比:0.56	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	必要部位に断熱材を設置	0.9/1.8	2.7
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率:53%		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.75	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.95		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型機器、自動水栓の採用	2.7/4.7	2.8
2 非再生性資源の使用量削減	分別が容易な工法の採用		
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣等間隔比:0.56	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	更新必要間隔の長い内装材の採用	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型機器、自動水栓の採用	2.2/4.0	2.8
2 非再生性資源の使用量削減	分別が容易な工法の採用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	分別が容易な工法の採用	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率:53%		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.75	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.95		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣等間隔比:0.56	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.75	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.95		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目	重点項目				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体			
	G	W	R	H			評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境						0.40		-		2.5
1 音環境					1.8	0.15	1.8	1.00	1.8	
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音					1.0	0.40	1.0	0.40		
1 開口部遮音性能					1.0	0.40	1.0	0.30		
2 界壁遮音性能					1.0	0.60	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	1.0	0.20		
1.3 吸音					1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境					2.2	0.35	2.3	1.00	2.3	
2.1 室温制御					2.3	0.50	2.5	0.50		
1 室温					2.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		W			2.0	0.25	2.0	0.43		
3 ゾーン別制御性					3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境					2.6	0.25	3.3	1.00	2.9	
3.1 昼光利用					1.8	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率				居室の昼光率1.25%以上	1.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口						-		-		
3 昼光利用設備		W			3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策					3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御		W			3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境					3.1	0.25	2.7	1.00	2.9	
4.1 発生源対策					3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質					3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気					2.0	0.30	2.3	0.38		
1 換気量					3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能						-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮					1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理					5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視						-		-		
2 喫煙の制御				全館禁煙	5.0	1.00		-		

Q2 サービス性能					0.30	-	-	2.8	
1 機能性					2.4	0.40	3.8	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性		居室面積10㎡以上		3.0	1.00	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応								
3	バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観						3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				1.0	1.00	1.0	0.50	
3	内装計画				3.0	0.30			
1.3 維持管理					3.0	0.50			
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		床:塩ビシート20年、壁・天井:ビニルクロス貼20年	5.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		汚水:VP(B)、雑排水:VP(B)、給水:塩ビ鋼管(B)、給湯:SUS(C)、上位2種にB以上、Eは不使用	5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20			
2.4 信頼性					2.2	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5	通信・情報設備				2.0	0.20			
3 対応性・更新性					2.6	0.30	2.4	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					1.8	0.30	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性				3.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出				G W H	1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G	2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				G W H	2.0	0.50			

LR 建築物の環境負荷低減性												2.9	
LR1 エネルギー						0.40		-		-		3.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H	BPI _m =0.75		5.0	0.20					5.0
2 自然エネルギー利用		W		H			3.0	0.10					3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BE][BE _m] = 0.95		2.2	0.50					2.2
4 効率的運用							3.0	0.20					3.0
集合住宅以外の評価							3.0	1.00					
4.1 モニタリング		W		H			3.0	0.50					
4.2 運用管理体制		W		H			3.0	0.50					
集合住宅の評価													
4.1 モニタリング		W		H									
4.2 運用管理体制		W		H									
LR2 資源・マテリアル						0.30		-		-		2.8	
1 水資源保護		W	R				3.4	0.20					3.4
1.1 節水					節水型便器、自動水栓の採用		4.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60					
1 雨水利用システム導入の有無							3.0	0.70					
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.30					
2 非再生性資源の使用量削減							2.6	0.60					2.6
2.1 材料使用量の削減		W	R				2.0	0.10					
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R				3.0	0.20					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		-		3.0	0.20					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		-		1.0	0.20					
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R				2.0	0.10					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R		LGSによる分別が容易な工法の採用		4.0	0.20					
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.20					3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30					
3.2 フロン・ハロンの回避							3.0	0.70					
1 消火剤		W					-	-					
2 発泡剤(断熱材等)		W					3.0	0.50					
3 冷媒		W					3.0	0.50					
LR3 数地外環境						0.30		-		-		3.0	
1 地球温暖化への配慮		W			ライフサイクルCO2排出率:96%		3.1	0.33					3.1
2 地域環境への配慮							3.0	0.33					3.0
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W	H			3.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制							3.0	0.25					
1 雨水排水負荷低減				R			3.0	0.25					
2 汚水処理負荷抑制				R			3.0	0.25					
3 交通負荷抑制				R			3.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制				R			3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮							3.0	0.33					3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40					
1 騒音							3.0	1.00					
2 振動							-	-					
3 悪臭							-	-					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制							3.0	0.40					
1 風害の抑制							3.0	0.70					
2 砂塵の抑制													
3 日照障害の抑制							3.0	0.30					
3.3 光害の抑制							3.0	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							3.0	0.70					
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30					